


## 度島地区まちづくり運営協議会の取組み

作成：平成27年2月

平戸市の概況		平戸市	度島地区
	人口	33,781人 (高齢者割合34.0%)	785人 (高齢者割合28.7%)
	世帯数	14,284世帯	248世帯
	面積	235.64km <sup>2</sup> (人口密度148.2人/km <sup>2</sup> )	3.49km <sup>2</sup> (人口密度227.2人/km <sup>2</sup> )
	集落数	163集落	3集落
	平戸市の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年10月1日に平戸市、生月町、田平町、大島村の1市2町1村が合併し、新「平戸市」が誕生。</li> <li>県北西端の沿岸部及び大小約40の島々からなり、うち5島(平戸島、生月島、大島、度島、高島)は有人島で、3島(大島、度島、高島)は九州本土からの交通手段は船舶のみである。</li> <li>人口は合併時(H17:39,930人)から約5千人が減少(H25:34,923人)し、少子高齢化、人口減少に伴う地域コミュニティの弱体化が課題。このような課題を解決するため、小学校区単位での新しいコミュニティづくり(まちづくり運営協議会の設立)を推進し、住民自治の確立を目指している。</li> </ul>	
度島地区の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>度島地区は、3自治会(度島浦、度島中部、度島三免)からなり、本土(平戸港)とはフェリーが定期的に運航されているが、島内にはバスその他の公共交通がない。</li> <li>高齢者割合は28.7%と市全体(34.0%)に比べて低いものの、成年男性は日中のほとんどをまき網漁業で海に出てしまうため、ふだん島内にいるのは高齢者と女性、子どものみという特異な状況にある。</li> <li>度島地区には、行政機関が学校と診療所以外存在せず、行政サービスが行き届きにくい状況があったことから、平成25年度に診療所及び地域交流施設を併設した介護予防拠点施設「ふれ愛センター度島」を整備している。</li> </ul>		
度島地区の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後高齢化が進む中で、自家用車に頼る島内交通に対し住民の不安が拡大している。</li> <li>日中、地域に生産年齢の男性がいないため、消防団員の確保、地域活動の担い手不足や自治会活動の衰退なども問題となっており、多世代の交流の場づくりや新たなコミュニティ運営の仕組みづくりが課題。</li> </ul>		
まちづくりの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年に度島地区内の各種団体からなる「度島地区活性化事業協会」を設立し、県交付金を活用したまちづくり事業「おかえりなさいイルミネーション事業」に取り組んだ。この取組を通じて度島地区の住民の一体感や団結が強まり、市が進める協働のまちづくりに向けた機運が高まりをみせたことから、平成25年度に度島地区まちづくり運営協議会を発足させ、「度島地区まちづくり計画」を策定した。</li> </ul>		

## 平成25年度における取組み

### ◆テーマ◆

○まちづくりの拠点となる介護予防施設「ふれ愛センター度島」の整備を契機とした度島地区まちづくり計画の策定

### ◆目的◆

○度島地区をひとつのコミュニティとして再構築するため、国土交通省所管の小さな拠点づくりモニター調査事業を活用し、「ふれ愛センター度島」を中心としたまちづくりの検討を行う。

「度島地区活性化事業協会」を母体に、各自治会や婦人会・PTA・老人会・民生委員などの各種団体代表、公募住民等からなる「度島地区まちづくり運営協議会」を設立し、これを新たなコミュニティ運営のベースとして検討を行う。

### ◆目標◆

○医療・福祉・コミュニティの複合施設である「ふれ愛センター度島」を中心として、度島島内での住民ニーズを踏まえた新たなコミュニティの機能や交流機能の提供方を明らかにするとともに、住民参画によるまちづくりの運営方策を検討することにより、島内生活を支える「協働によるまちづくり」を目指す。

また、公募住民を含む協議会での検討や意見交換会、講演会を通じて、地区住民全体のまちづくり意識を高め、絆の再構築を図り、「度島地区まちづくり計画」を策定する。

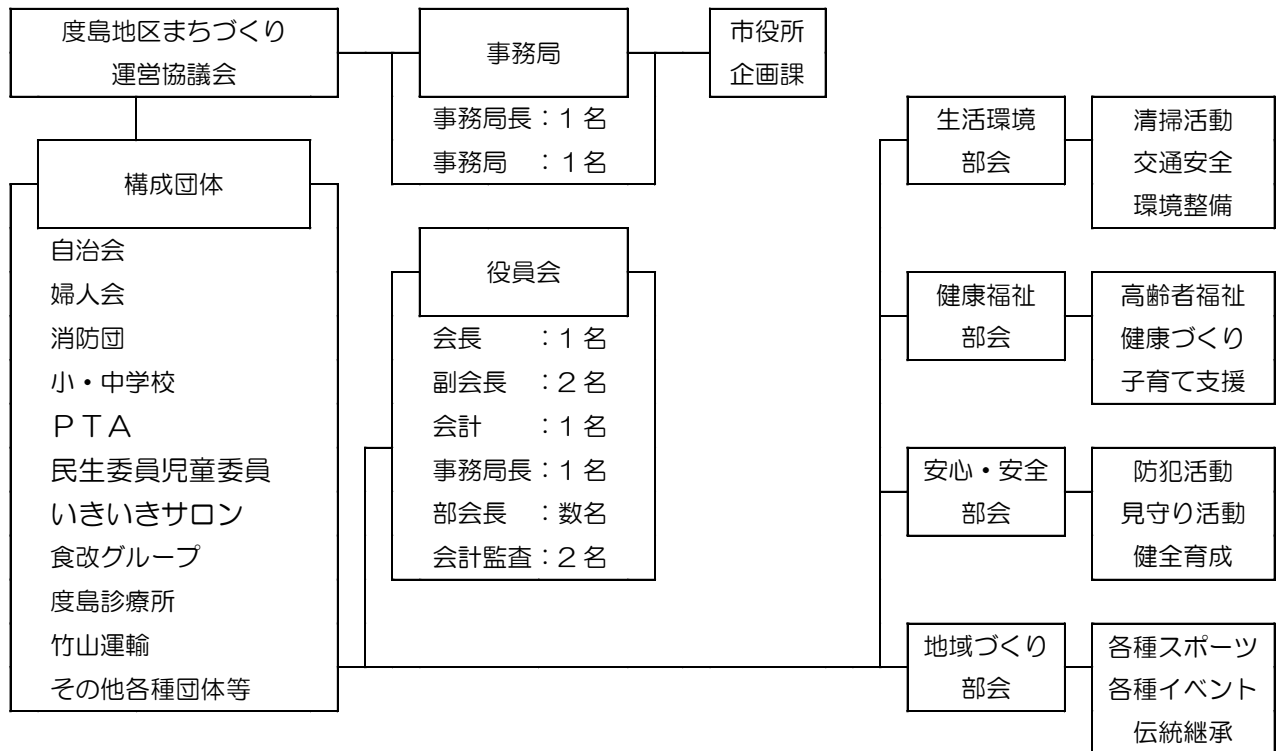
### ◆活動スケジュール◆

項目	内容	時期
地域における生活課題の整理	○医療・福祉、子育て、島内交通など、度島地区内の生活サービスの状況を把握 ・8月に実施した住民アンケートの分析 ・まち歩きによる地域の総点検	9月～ 10月
住民ニーズの把握	○拠点に求める機能や拠点と各集落を結ぶアクセスへのニーズを把握 ・住民のニーズ調査	9月～ 10月
度島地区まちづくり計画の策定	○拠点施設での新たな生活サービスの提供方策やコミュニティ活動・交流活動の展開方策、拠点の運営方策や各集落からのアクセス対策等を検討し、まちづくり計画を策定	9月～ 2月
住民への啓発活動の実施	○地区住民に対し、度島地区まちづくり計画の住民報告会を行政区ごとに開催し、協働によるまちづくりへの意識啓発を図る。	2月

◆実施体制◆

○協働によるまちづくりを実施するため、自治会、婦人会、消防団、小・中学校、PTA、民生委員児童委員、いきいきサロン、食改グループ、度島診療所を支える会、度島グラウンドゴルフ、度島診療所、竹山運輸等の代表者や一般公募委員を委員とする度島地区まちづくり運営協議会を設立したほか、資料作成や各種調査の実施、協議会での意見の集約等を行う作業部会として、生活環境、健康福祉、安心・安全、地域づくり部会を設置した。

(度島地区まちづくり運営協議会組織図)



◆まちづくり拠点施設「ふれ愛センター度島」◆

事業実施主体：平戸市（長寿保険課）

施設名：ふれ愛センター度島

竣工：平成26年3月10日（予定）

敷地面積：2,151㎡

延べ床面積：388.37㎡（1階：277㎡、2階：111.37）

構造：鉄筋コンクリート造り

用途：度島診療所、介護予防拠点施設として介護サービスの実施、談話室、図書コーナー、調理室、地域コミュニティの創出など

診療所(158.25㎡)

コミュニティセンター(118.75㎡)



南側立面図 S=1:100

東側立面図 S=1:100

### ◆度島地区における生活課題◆

○度島地区は、明治22年当時の平戸村の一部で、昭和30年に平戸市に合併して以降も、漁協、農協、郵便局、診療所、保育所、小、中学校が立地していた。現在度島地区にある生活サービス関連施設は、漁協、農協、郵便局、診療所、保育所、小、中学校などである。

日常的な買い物や通院については、平戸市街地までフェリー度島に乗船して行かなければならない。また、度島島内に公共の交通手段は無く、自家用車が運転できない高齢者等にとって生活交通の確保が課題になっている。

度島地域における生活サービス機能の現状

分野	地域内で受けられる生活サービス	主に地域外で利用するサービス
行政	○度島連絡所(徒歩1分) 機能:戸籍、印鑑証明、所得証明など 組織:職員1名	○平戸市役所 (約10km、フェリーで30分、徒歩で10分)
医療	○国民健康保険度島診療所(徒歩1分) 診察:毎週月～金曜日 (8時30分～17時00分) 診療科目:内科、小児科	○柿添病院 (約9.5km、フェリーで30分、徒歩で5分) ○北川病院 (約9.5km、フェリーで30分、徒歩で5分)
保健	—	○平戸市保健センター (約30km、フェリーで30分、車で30分) 各種健診の実施、健康相談など
福祉	—	○平戸市社会福祉協議会 (約10km、フェリーで30分、徒歩で10分)
教育・子育て	度島小、中学校(約1.5km、徒歩20分) 度島へき地保育所(徒歩1分)	○猶興館高等学校 (約11km、フェリーで30分、徒歩で15分)
買い物	○商店3店(酒屋(2)、雑貨(1))(車で5分) ○漁協ガソリンスタンド(車で1分) 営業:月～金、8時30分～9時30分 13時～14時 ○農協ガソリンスタンド(車で5分) 営業:月～金、8時～17時	○平戸商店街 (約9.5km、フェリーで30分、徒歩で5分)
通信	○簡易郵便局(徒歩3分)	○平戸郵便局 (約10km、フェリーで30分、徒歩で10分)
金融	○ゆうちょ窓口(徒歩3分) ○農協窓口(車で5分) ○漁協窓口(徒歩4分)	○親和銀行平戸支店 (約10km、フェリーで30分、徒歩で10分)
その他	—	—

◆度島地区における生活サービス等の現況整理◆

○度島の生活関連施設の立地状況や拠点周辺で受けられる生活サービスの状況、あるいは度島島外に行かないと享受できない生活サービスの種類・内容や地域からの交通アクセスの状況などについて、把握、整理するとともに、サービス提供事業者に対してヒアリング調査を行い、それぞれのサービスの利用状況や課題等について整理した。

生活サービス提供事業者へのヒアリング調査の結果

対象者	度島における各種生活サービス提供事業者 計 9事業者 【買い物】 こうじや商店(雑貨)、角野酒店(酒屋)、野田酒店(酒屋) 【医療】 度島診療所(濱田医師) 【行政等】 度島連絡所、郵便局 【保育所】 度島へき地保育所 【ガソリンスタンド】 漁協ガソリンスタンド、農協ガソリンスタンド	
調査方法	度島地区まちづくり運営協議会事務局が各事業者を訪問してヒアリングを実施	
調査時期	調査日:10月24日、25日	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度島地区におけるサービス提供内容と利用状況について</li> <li>・度島地区におけるサービス提供上の問題点等について</li> <li>・今後のサービス提供の見通し、計画等について</li> </ul>	
調査結果から得られた知見	○こうじや商店(雑貨)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たばこ、ジュースを主に他雑貨の取り扱い</li> <li>・店の前の自動販売機(たばこ、ジュース)</li> <li>・利用状況・・・低年齢の子供達はアイス、ジュースが多い、たばこを買う人が少なくなった</li> </ul>
	○角野酒店(酒屋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒、雑貨の取り扱い</li> <li>・利用状況・・・高齢者の方が多い</li> </ul>
	○野田酒店(酒屋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒、たばこ、食品、雑貨の取り扱い</li> <li>・宅急便の取り扱い</li> <li>・利用状況・・・年齢層は幼児から老人まで</li> </ul>
	○度島診療所(濱田医師)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児から老人にいたる一般的なよくある病気の治療を行う。</li> <li>・専門的治療や更に詳しい検査が必要な場合は、それぞれに適した病院へ紹介する。</li> <li>・1日20～30人の外来患者あり、月に2人の急患を平戸市内へ救急搬送している。</li> <li>・夜間も適時、対応している。</li> </ul>
	○度島連絡所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸籍、住民票、印鑑証明書、パスポートなどの取り扱い</li> <li>・福祉の面で、傷病手当、子供会、子供手当での書類提出などを受付</li> <li>・1日平均 22件</li> </ul>
	○郵便局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金、保険</li> <li>・本の貸し出し・・・平戸図書館から月1回、30冊の貸し出し</li> <li>・利用状況(本)・・・平均月30人くらい利用</li> </ul>
	○度島へき地保育所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50人定員で現在20人の園児</li> <li>・午前 8:00～午後 4:00 までの保育(12月29～1月3日のお正月休み)</li> </ul>
	○漁協ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェリーの時間に合わせたの営業 午前 8:30～9:30 午後 1:00～2:00</li> <li>・利用状況・・・ガソリンは1日2, 3人で冬場の灯油利用者が多い</li> </ul>
	○農協ガソリンスタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業時間・・・午前 8:30～ 午後 5:00</li> <li>・利用状況・・・島民全般、業者、夏場にガソリン給油多く、冬場に灯油給油多い</li> </ul>
実施上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>【買い物】 ・仕入の為の船の運賃がかかるので、雑貨など利益がつかない</li> <li>・売上げの低迷</li> <li>【医療】 ・救急患者の搬送(自宅から診療所、診療所から港やヘリポート)の時に運ぶ車がない。</li> </ul>	

	<p>・代理医師が必ずしも補充されない。</p> <p>【行政等】・窓口が診療所と同じ為(兼務)、患者さんが多い時など、特に困る。</p> <p>・婚姻届、出生届、死亡届も出来たらと思う。</p> <p>【保育所】・子供達のために課題を改善したくてもへき地保育所は、平戸市から社会福祉協議会が指定管理を受けて運営しているため、課題改善がスムーズに進まない。</p> <p>【ガソリスタント】・漁協と農協の2社が存在しており、客の取り合いになっているため利用者が少ない。</p>
今後の展開方策	<p>・第3年度度島地区まちづくり運営協議会で報告</p> <p>・今後、度島島民の生活に直結する課題であるため、度島地区まちづくり運営協議会で課題を抽出してさらに詳しい調査、協議、検討、住民報告を行うための体制作り確立させる。</p>

## ◆平成25年度の成果と課題◆

### (1) 住民ニーズの把握について

○今回、各世帯を対象とした住民アンケートを実施したが、幅広い意見集約として、全住民を対象とした住民アンケートを実施すべきであったと感じた。

また、度島まち歩きの際や事務局の住民ヒアリングなどで地域の課題や住民ニーズの把握に努めたが、対象者が少数であったため、「全島民を対象とした意見交換会」を開催するなど、民意の集約に力を注ぐべきであったと感じた。

#### (住民の要望)

・島内バスの運行ができないか？・気軽に足を運んでコミュニケーションが取れる拠点が必要・住民総参加のコミュニティ活動・習い事等ができる公共の場所が必要・デイサービスなどの高齢者の見守りが必要・子育て中のお母さんが集まって意見交換したり、子どもを遊ばせることのできる場所がほしい！・自由に誰でも意見が言えるような社会が必要・子ども達が残りたい、帰りたいと思えるようなまちづくりなど

#### (要望の反映)

・各種団体及び一般公募で組織する度島地区まちづくり運営協議会の設立し、住民の要望を反映させた度島地区まちづくり計画を作成した。

#### (計画を策定する上でもたらした影響・効果)

・民意を基に策定することになったため、責任感を持った真剣な議論がなされた。

### (2) 協働によるまちづくりに向けた機運の醸成について

○地域住民との合意形成を図るために、「度島地区まちづくり計画住民報告会」を全島民対象に自治会単位で開催した。住民報告会では、「まちづくりの重要性」や「全島民が一致団結することの大切さ」などの意見が自発的に出されたことは非常に良かったものと判断している。

一方、反省すべき点は、全島民対象に呼びかけた住民報告会が結果的に各世帯の代表者のみの出席となったため、子どもや若者の意見が聞けなかったことは非常に残念であった。

### (3) 度島地区まちづくり計画の策定について

○協働によるまちづくりに向けた計画である「度島地区まちづくり計画」の策定に際し、平戸市のまちづくりアドバイザーを起用し、「よその者」の目で指導・助言を受けられたことは有効であった。また、できるかぎり民意を聴きながら、各部会でワークショップ形式の議論を行い、合意形成に努めた点は、度島の強みや弱みを再認識し、協議会の中で共感がなされ、実行に移そうという気持ちを持たせるための原動力となった。

## 平成26年度における取組み

---

### ◆テーマ◆

○平戸市コミュニティ推進モデル地域交付金を活用した本格的なまちづくり事業の実施

### ◆目的◆

○度島全島民に対して、青少年の健全育成、福祉・健康づくり、環境美化・防犯・防災活動、産業の振興などまちづくりに関する事業を行い、地域課題の解消に寄与することを目的とする。

### ◆目標◆

- ①各種まちづくり事業の円滑な推進
- ②特定非営利活動法人の法人格取得
- ③コミュニティバスの運行

### ◆度島地区まちづくり運営協議会の事業方針◆

- ・子育て支援に関する事業
- ・青少年の健全育成及び生涯学習（公民館）に関する事業
- ・市民の健康づくりに関する事業
- ・高齢者の生きがいつくりに関する事業
- ・環境の美化、ごみの減量・リサイクルに関する事業
- ・防犯及び防災に関する事業
- ・地域課題の解消に関する事業（交通問題、買い物難民、見守りなど）
- ・まちづくり運営協議会事務局業務（地域職員の雇用など）
- ・その他（指定管理業務や市からの移管事務事業など）

### ◆各部会の事業方針◆

#### 【生活環境部会の事業方針】

事業名：度島コンサート（地域課題の解消）

内 容：地域づくり部会と協議しながら若者向けのイベントの確立に向けて 継続して協議していく。

事業名：古紙回収事業（環境の美化、ごみの減量・リサイクル）

内 容：度島婦人会を中心に住民の協力を得ながら古紙回収を行っていく。

事業名：婚活事業（地域課題の解消）

内 容：度島の若者の結婚対策が地域の課題となっていることから、まき網 船員などの若者に対して、積極的に平戸市の婚活事業に参加するよう啓発を行う。

事業名：道路整備事業（環境の美化、ごみの減量・リサイクル）

内 容：道路脇の除草や花植えなどを行い環境整備に努めていく。

事業名：美化活動事業（環境の美化、ごみの減量・リサイクル）

内 容：「島内一斉ゴミ拾いの日」など定期的な活動を行うことで島内の環境美化・ゴミ減量の取組みを進めていく。

### 【健康福祉部会の事業方針】

事業名：度島高齢者見守りネットワーク事業（高齢者の生きがいづくり）

内 容：食改グループや婦人会などと連携して、高齢者に対する「ふれ愛弁当サービス」を実施することで、高齢者の見守り活動や生きがい作りに寄与する。

事業名：高齢者生きがい作り事業（高齢者の生きがいづくり）

内 容：高齢者の生きがい作りを目的として、ふれ愛センターで「高齢者の集い」を開催する。

事業名：敬老会開催事業（高齢者の生きがいづくり）

内 容：島内の各種団体へ協力を要請し、度島地区の高齢者を一堂に集めて敬老会を開催する。

事業名：コミュニティバス運営事業（地域課題の解消）

内 容：島内に公共交通機関が無いことからコミュニティバスを運行させる。

事業名：度島全島民グラウンドゴルフ大会開催事業（市民の健康づくり）

内 容：度島全島民の健康づくりを目的として、グラウンドゴルフ大会を開催する。

### 【安心安全部会の事業方針】

事業名：安全パトロール及びあいさつ運動事業（防犯及び防災）

内 容：度島全島民に呼びかけて定期的な安全パトロール及びあいさつ運動を実施する。

事業名：危険箇所等に看板を立てる事業（防犯及び防災）

内 容：島内の様々な危険箇所に看板を立てて、事故などが発生しないように啓発する。

事業名：A E D設置事業（防犯及び防災）

内 容：度島三免地区にA E Dが設置されていないことから、緊急時の対応として、A E Dを購入し、設置する。

事業名：道の整備事業（防犯及び防災）

内 容：道路の側溝など修復が必要な箇所を市と協議しながら簡易なものだけ修復する。

事業名：信号機の設置をお願いする取組み（防犯及び防災）

内 容：度島地区に信号機が無く、信号機が必要と思われる箇所も存在することから、市及び警察署へ信号機の設置について陳情を行う。

事業名：外灯の整備事業（防犯及び防災）

内 容：防犯灯を設置している箇所の電気料や新設するための経費を自治会へ補助することで適切に管理してもらう。

### 【地域づくり部会の事業方針】

事業名：島民の絆を強くするためのイベント作り（地域課題の解消）

内 容：「おいでまっせ！華まつり」「度島フェスティバル」「度島地区文化祭」

「おかえりなさい！イルミネーション」などのイベントを開催できるよう協議を進める。

また、イベントについては、イベントごとに実行委員会を組織し、実行委員会へ補助金を交付することで団体の育成や組織の強化を図る。

事業名：ふれ愛センター拠点づくり事業（子育て支援・青少年の健全育成）

内 容：ふれ愛センターが子どもから高齢者まで集まる「地域の拠点づくり」を進める。

### 【まちづくり運営協議会事務局の事業方針】

事業名：度島地区まちづくり運営協議会開催事業

内 容：定期的にまちづくり運営協議会を開催し、各種事業の円滑な推進やまちづくり計画の見直しなどの協議を実施する。



事業名：研修事業

内 容：平戸市の研修や外部講師を度島に招へいし、協働によるまちづくりの見識を深める。

事業名：事務局運営事業

内 容：まちづくり運営協議会が活発に活動できるよう、事務局機能を充実させる。

事業名：ふれ愛センター度島の指定管理（地域課題の解消に関する事業）

内 容：ふれ愛センター度島を適切に管理運営していく。

#### ◆特定非営利活動法人の法人格取得までの流れ◆

- ①平成26年6月25日：特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会の設立総会
- ②平成26年7月3日：特定非営利活動法人度島地区まちづくり協議会設立認証申請の提出
- ③平成26年9月10日：特定非営利活動法人度島地区まちづくり協議会設立認証の交付
- ④平成26年9月19日：特定非営利活動法人度島地区まちづくり協議会の登記完了
- ⑤平成26年10月1日：特定非営利活動法人度島地区まちづくり協議会の活動開始

#### ◆特定非営利活動法人設立の趣旨◆

・平成25年度に度島の各種団体が集まり、まちづくりの推進を図るため、度島地区まちづくり運営協議会を設立し、度島地区のまちづくり計画を策定した中で、度島の様々な地域課題が浮き彫りとなったことから、NPO法人格を取得し、様々な事業を展開することで、度島の島民が安全に安心して暮らせる住みやすい町にするため、法人の設立を発起した。

#### ◆福祉車両寄贈までの流れ◆

- ①平成25年11月1日：度島地区まちづくり運営協議会から、平戸市社会福祉協議会に対して「福祉車両寄贈に対する要望書」を提出する。
- ②平成25年11月18日：平戸市福祉保健部長から、平戸市社会福祉協議会に対して「福祉車両寄贈に係る意見書」が提出される。
- ③平成25年11月26日：平戸市社会福祉協議会の平成25年度第4回「理事会」において、「福祉車両寄贈に対する要望書」について協議がなされ、満場一致で、寄贈を行うことに決定。
- ④平成26年3月27日：平成25年度第5回「理事会」並びに平成25年度第3回「評議員会」において、平成26年度事業計画並びに平成26年度収支予算について議決され、福祉車両寄贈について計画並びに予算が原案どおり議決
- ⑤平成26年7月22日：福祉車両入札（業者決定）
- ⑥平成26年10月20日：福祉車両贈呈

#### ◆コミュニティバス運行にかかる住民アンケートの実施◆

対象者：全島民

期 間：平成26年10月1日～平成26年10月13日

(アンケートの分析結果)

- ①コミュニティバスの運行事業については、286件、80%が賛同されており、コミュニティバスへの期待の高さが現れていると思われます。
- ②「コミュニティバスを利用しますか」の問いに「利用する」と応えた方が114件、32%と少々低い数値となりましたが、「わからない」と応えた方が76件、21%になっている所を見ると時刻表など不明な点が多く、判断できなかったことから低い数値となったと思われます。
- ③コミュニティバスを利用する理由としては、「家に自動車が無いから」が37件、10%、「自動車

に運転できないから」が、35件、10%となっており、高齢化に伴う自動車離れも確実に進んでいると思われます。また、「路線の存続に貢献したい」が42件、12%とコミュニティバスを運行し、存続させていきたいという思いや「自分達の足」としての認識の高さが現れていると思われます。

- ④コミュニティバスを利用する主な目的、時間について、診療所の通院では、往路の朝8時、復路の10時、11時のニーズが高い状況となりました。また、島外へ出る方を対象としたフェリーとの連携時間では、往路の1便、復路の3便のニーズが高い状況となりました。
- ⑤自由回答では、「診療所の通院に合った時間設定」、「フェリーに合った時間設定」、「高齢者の利用しやすいバスにすること」、「料金は100円（低料金）」、「コミュニティバス運行時間以外の有効活用」などに対する意見が多かったようです。

#### ◆コミュニティバス運行にかかる住民意見交換会◆

(目的)

・住民意見交換会は、コミュニティバスの情報提供と併せて、「自分達が経営する、自分達の足」という「住民一人ひとりが経営者であることの自覚」と「地域住民の乗り支え」の気運を高めるために実施しました。

(対象者)

度島全島民

(日時及び場所)

度島浦地区	…10月19日（日）午前9時～	度島浦公民館にて	30人（6班）
度島三免地区	…10月19日（日）午後1時～	度島三免集落センターにて	26人（5班）
度島中部地区	…10月19日（日）午後5時～	度島中部公民館にて	37人（6班）

(住民意見交換会の意見集約)

【対象者】

コミュニティバスの主な対象者は、65歳以上の高齢者

【料金関係】

運賃は1回の100円、回数券の発行（11枚券など）、個人及び団体への貸出しは、1回1,000円

※イベント時は、まちづくり運営協議会が主催、共催、後援する事業について無料

【検討課題】

- ・区費の見直しを行った後、将来的には、会費制の導入
- ・ミニデイサービス利用者は、ミニデイサービス送迎ダイヤのみ無料とする。
- ・フリーパス券の発行（1人×5,000円/年×230人/65歳以上人口=1,150,000円）  
メリット（安定した収入源、効率の良い運営など）

【運転手の雇用】

運転手は3人程度、時給制で雇用し、住民ニーズに可能な限り応えられる体制とする。

【運行表】

- ①金融機関に行く便がほしい。
- ②フェリー往路1便の始発が早すぎ。
- ③大浦商店前をバス停にしてほしい。
- ④三免地区住民を対象にフェリー往路4便（三免→本村港）のダイヤを追加してほしい。
- ⑤乗車時間の1時間は長すぎるのではないか？

◆住民意見交換会での意見◆

Q 度島地区まちづくり運営協議会が発足して約1年が経過しました。

度島地区まちづくり運営協議会の発足前と後で皆さんの周りは変化しましたか？

(回答)

- ・良くなって来ている。(複数回答)
- ・度島もようやく少しずつ変わって行くのがうれしいです。
- ・まちづくり協議会の方々の頑張りが見えてると思う。新聞発行なども良いと思う。
- ・住民の意見が具体的なものとして実現できるチャンスが増えたと思います。
- ・島民のつながりが出来、少しずつ大きくなってきている。益々発展する予感！
- ・まちづくり協議会の活動は、まだまだスタートしたばかりなので評価はまだです。
- ・色々話し合われているようですが今の所特に変わった感じはありません。(複数回答)
- ・全島の部落意識が変わりつつある。意見を発表するようになった。島民が明るくなった。
- ・特に変化は見られない。(複数回答)
- ・地域と行政が一緒になって意見交換できることは良い変化。

◆協働によるまちづくり着手前との比較による成果（行政側の視点）◆

○まちづくりを初めてから新規の市民活動団体が増えた。

⇒①おたからちゃん(延長保育)、②つぼみっこクラブ(女性の交流)、③こいこいクラブ(舞踊)、  
④島のアトリエ(お土産)、⑤コットンクラブ(手芸)、⑥ムービークラブ(映画鑑賞)、  
⑦さつき(健康体操)、⑧歌おう会(カラオケ)、⑨マルジー会(健康体操)

○市民活動団体が積極的に活動できる拠点施設ができた。

⇒ふれ愛センター度島の建設

○少しずつではあるが女性が発言しやすい地域づくりができています。

また、住民がまちづくりに対する要望を言うようになったし、言える環境が出来た。

⇒度島地区まちづくり運営協議会への女性の登用

○度島地区の活性化及び地域課題の解消が図られてきている。

⇒平戸市コミュニティ推進モデル地域交付金を活用したまちづくり事業の実施

○高齢者を対象とした介護予防の充実が図られた。

⇒ミニデイサービスの開始(毎週火、金曜日)

たくしま大楽(旧いきいき脳健康教室)の開始

○平戸で開催されている講座やイベントが少しずつ度島でも開催されるようになってきた。

⇒住民の協力体制やまちづくりの意識が向上してきた。

○ふれ愛センターに図書コーナーができたことにより図書の要望が増えてきた。

⇒図書コーナーの設置

○行政との距離感が近くなった。

⇒地域支援員(地域協働課職員)の配置(毎週1回以上の訪問)

○地域課題への素早い対応(情報収集及び提供)ができるようになった。

⇒集落支援員の配置(地域の巡回、目安箱の設置、住民ニーズの把握、度島新聞の発行など)

○今後において高齢化に伴う住民の移動手段の確保が図られる。

⇒コミュニティバスの運行(H27.1.5～)

**事業名：度島まちづくり塾****【目的】**

近年、少子高齢化が進む末端の地域においては、若年世代の存在が重要になってきております。特に子どもは、「次世代の担い手」であり、幼い頃から地域と積極的にかかわることで「持続可能なまちづくり」に繋がることを期待されています。

しかし、学校と家庭を行き来することが日常生活のほとんどを占める子どもにとって「地域」は形として捉えにくいものであり、「まちづくり」ということにおいても実感はないものと推察されます。そこで本事業は、度島中学校の生徒を対象に度島地区のまちづくりに対する取り組みへの発言の機会を与え、積極的にまちに興味を持ってもらうため、「度島まちづくり塾」を開催します。

**【事業のねらい】**

- ①度島地区のまちづくりに対する取り組みへの発言の機会を与え、積極的にまちに興味を持ってもらうことで「次世代の担い手」を育成する。
- ②地元への愛着を深めさせることにより、地元への定住施策に繋げる。
- ③住民総参加のまちづくりを定着させる。

**【内 容】**

「まち歩き」として度島の各所見学や体験、グループ討議（ワークショップ）等をとおして、度島のまちづくりについて、日頃から感じていること、考えていることなどについて話し合い、将来像を描き、自分達の住んでいる地域への関心を高めるとともに、子ども目線の意見を集約した「度島地区まちづくり計画」を策定する。

**事業名：度島地区におけるITを活用した高齢者生活支援検討****【コンセプト】**

「ふれ愛センター度島」に集い 島民がふれあい 度島で健康に暮らす

**【概要】**

度島地区では、住民の交流施設として、診療所を併設した「ふれ愛センター度島」を開設している。そこで、コミュニティバスを活用して住民の方々が「ふれ愛センター度島」に訪れ、「ふれ愛センター度島」で住民が交流しながら地域課題を解決するモデルの実現を目指す。

スマートフォンやタブレットで使用できるアプリを開発し、地域コミュニティとの融合による地域課題の解決を行う。

- ①交通（コミュニティバスの利活用促進）、②買物（利便性向上）、③見守り（住民どうしの声かけ）、④電子回覧板、⑤住民間のコミュニケーションツール（掲示板等）